

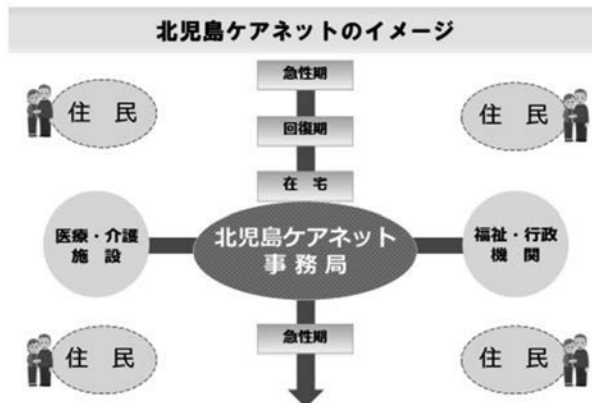
地域包括ケアネットワーク No.73

「北児島ケアネット」4年間の活動報告

北児島医師会地域包括ケア担当理事 西崎 進

北児島医師会内に「北児島ケアネット」が設立されてから本年12月で4年が経過しようとしています。その基本理念は地域社会の維持発展のため医療、介護、行政、福祉（地域）が互いに補完しあう統合システムの再構築が必要であることを皆さんに理解して参加していただくといったものでした。

その理念達成のためのイメージとして図に示しますように、縦軸に急性期・回復期・在宅の医療連携軸、横軸に医療・介護施設、行政・福祉（地域）機関のケア連携軸があり、その縦の軸と横の軸が互いに連携しあって、初めて地域包括ケア＝トータルケアが成し遂げられると考えました。その中核となる北児島ケアネット事務局を北児島医師会内に設置しました。（添付図）



これから先の地域包括ケアは、団塊の世代が後期高齢者になる2025年問題のみでなく、そして、医療・介護の範囲だけに限らず、防災、子育て支援なども地域の問題として取り上げるべき課題であり、ひいては、団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年問題まで見据えていかねばならない状況かと考えます。

今日までの4年弱の間、16回の運営委員会および12回のシンポジウムをおこない、参加者数も医療、介護、行政に加えて地域の福祉および一般の方の参加が徐々に増えて来、シンポジウムでは100名を超える会が珍しくなくなってきました。

平成30年7月5日に開催された第8回シンポジウムのテーマは「防災」でした。この日は西日本豪雨災害が起こった当日であり、シンポジストで出席いただいていた岡山市、倉敷市の防災担当者の方々は「大雨洪水警報発令」の緊急連絡を受け、やむをえず途中退席という事態になりました。その時のインパクトが非常に強かったため、令和元年も再度「防災」をテーマに第11回シンポジウムをおこない、当時甚大な被害状況のなか、災害現場の中心で指揮をされたまび記念病院理事長の村上和春先生を講師としてお迎えしました。西日本豪雨災害を経験された当事者であり、また、医療の側面からお話が聞けるということで、100名以上の方の参加があり、一般住民の方の申し込みも着実に増加してきています。

平成30年12月6日北児島ケアネット拡大運営会議において、ある介護施設より6月の西日本豪雨災害時に施設が浸水しそうになり、入居者さんを安全な場所に避難させる必要があった。いろいろな公的機関に救援を要請したが対処してもらえず、結局は自力で関連施設の応援を得てやっとの思いで避難できたという発言がありました。その時、他の介護施設より、当時自分たちの施設は送迎車も人手も余裕があったので援助に行くのは可能であった。そのような時のために、北児島ケアネット内に施設間の「相互協力援助部会」を設けてはどうかという意見が出、多数の賛同が得られました。そして、令和元年12月の北児島ケアネット拡大運営会議においては「相互協力援助部会」設立に向けての検討会を予定しています。

この「北児島ケアネット」活動は平成30年度と令和元年度に岡山県医師会より岡山県医療介護連携体制整備事業の一環としての補助金を交付していただいております。構成員一同よりよい地域包括ケアの推進に努めています。